

第3章 三新法体制

第貳条

一 議員ノ席次番号ハ改撰期毎ニ籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三條

一 議事中議員ノ退席ハ其事故ヲ告ケ議長ノ許可ヲ得ヘシ

第四條

一 議員ノ内事故アリ出席スルヲ得サル時ハ開會時限ニ先チ其事由書面ヲ以テ議長ニ届出ツ可シ

第五條

一 議事中議員相私語シ或ハ吸烟シ其他議事ヲ妨クルノ挙動アルコトヲ許サス

第六條

一 議事中ハ姓名ヲ呼ハスシテ議長又ハ何番議員ト呼フヘシ

第七條

一 議事中議題外ニ起リタル総テノ事件ハ議長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ルヘシ

第八條

議事

一 通常會ニ於テ議員ヨリ意見書ヲ出ス時ハ戸長之ヲ正ニ議ス可キ者ト認ルニ於テハ會議ノ議案ト為スコトヲ得

但意見書ヲ出スハ少クモ開會当日ヨリ三日以前トス

第九條

一 議事ヲ開クトキハ議長ハ書記ヲシテ議案ヲ朗読セシム可シ

第十條

一 議事ハ左ノ数次會ヲ經ルモノトス

第一次會

本會ハ議案ノ大意ヲ議シ可決スルトキハ第二次會ヲ開クヘシ

第二次會

本會ハ前會ニ可決シタル議案ヲ逐條審議シ每節議決シ畢レハ第三次會開クヤ否ヲ議定スヘシ

第三次會

本會ハ前會ニ可決シタル全案ニ就キ可否ヲ議定スヘシ

第十壹條

一 議事前議長ハ先ツ其主意ヲ予メ演說シ衆議員ハ其意味解得ナサル時(ハヤ)ハ資問ノ上了解シテ發議ス可シ

第十貳條

一 議題了ラサル間ハ他ノ議題ニ發言スルヲ得ス

第十參條

決議

一 可否ヲ決スルノ法ハ起立シテ議長之ヲ定ムヘシ

第拾四條

一 動議ハ原案ニ先チ可否ヲ決ス可シ最モ原案ト大ニ異ナルヲ以テ

先トシ順次決ヲ取ル可シ

第拾五條

一 討論審議中ト雖モ議長ニ於テ論旨既ニ尽キタリト認ルトキハ之

ヲ會議ニ問ヒ其議題ノ決ヲ取ルコトヲ得

右者本年六月本県甲第五拾貳号ヲ以テ村會規則御布達ニ拠リ則チ前

條之通議事細則議決候ニ付此段御届及候也

明治十七年七月

橘樹郡大豆戸村外七ヶ村

戸長 池谷 義広

神奈川県令 沖 守固殿

(干職必携) 飯田助丸氏蔵)

(注) 山口匡一氏所蔵資料に同様のものがある。

八 町村会に関する高座郡長代理の訓示および

同郡橋本村三か村戸長の上申書(二一三)

(一)

高座第千五百廿四号

戸長

町村会及連合会ニ関シ県令へ処分ヲ請ヒ若クハ伺届等ノ諸公文書ハ

総テ郡役所ヲ經由スヘキハ勿論タルヘシ

議員ノ辭職又ハ資格ヲ失ヒ及満期改撰等更迭ノ節ハ其都度退職就職

トモ族籍氏名ヲ具シ郡役所へ届出ヘシ

町村會議員撰挙人被撰入トモ本籍寄留ヲ不問儀ト心得ヘシ

明治十四年二月本県甲第三十号布達第壹項ニヨリ會議開閉時日場所ヲ

具シ郡役所へ届出ヘシ

但臨時會ヲ要スルトキハ規則第廿八條但書ノ通タルヘシ

會議ニ当リ戸長ハ議按ノ旨趣ヲ弁明スルトキハ議長ノ席ヲ退キ番外

席ニ就キ説示スヘシ

右為心得訓示候事

明治十七年八月十九日

高座郡長今福元頼代理

高座郡書記 伴野淳藏

(訓第四号四冊之内高座郡役処達) (明治一七年) 相模原市史資料室藏)

上 伸

(二)

右ハ規則ニヨリ郡下相原村外三ヶ村々會議員人名本郡衙ヲ經由本県
へ届出方去ル十一日別紙届書ヲ以進達候然ルニ相原村ノ儀村會議員
七名ナル所規則第六條ノ主意ニ違背スル趣ニテ名減員スベキ云々
ヲ以該届書ハ本郡庶務懸ヨリ返戻セラル畢竟其六條ノ解釈疑義ヲ起
生スルニ付該六條ニ対シ其筋ノ御内示モ有之候ハ、明知致度趣ヲ以
庶務懸へ質義候所当懸ノ通知信認セサレハ随意本県へ申出ベク云々
通牒セラレタリ抑町村會規則第六條ヲ熟視スルニ単ニ戸数ニ從ヒ之
ヲ定ムルモノト有之是ニ依テ之ヲ視ルニ相原村ノ如キハ二百廿戸ナ
ルヲ以テ議員七名ヲ選定スルモ敢テ御規則ニ触ル、モノニ無之モノ
ト信認候ニ付目下會議ニ差逼リ居候間別紙村會議員及ヒ連合會議員
共直接本県へ届書相添併テ理由開伸候間若シクハ町村會規則第六條
ニ抵触ノ点モ有之候ハ、至急明瞭ノ御訓示奉仰候也

明治十七年八月廿六日

高座郡橋本村外三ヶ村

戸長 原 清兵衛

神奈川県令 沖 守固殿

(諸願届開申込込) (明治一七年) 相模原市史資料室藏)

六 橘樹郡下学区連合町村會關係文書(二一五)

(一)

神奈川町外一ヶ町学区外四学区連合町村會議事細則本郡役所ヨリ交
付相成候間別紙之通牒写御回送申候也

十八年五月十五日

大豆戸村外七ヶ村

戸長役場(印)

高等科連合會議員

飯田快三殿

(別紙)

神奈川町外一ヶ町学区外四学区連合町村會議事細則

議場整理

- 一 會議ハ午前九時ニ始メ午後三時ニ終ル
- 但時宜ニ依リ議長之ヲ伸縮スルコトヲ得
- 一 議員ノ席次番ハ改撰期毎ニ籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 一 議事中議員退着席ハ議長ノ許可ヲ得ヘシ
- 一 議員ノ内事故アリテ出席スルヲ得サルトキハ開會時限ニ先タテ
其事由ヲ議長ニ届出ヘシ
- 一 議事中議員相私語シ或ハ吸煙シ其他議事ヲ妨クル挙動アルコト

ヲ許サス

一 議事中ハ姓名ヲ呼ハスシテ議長及ヒ何番ト呼ベシ

一 議事中議題外ニ起リタル総テノ事件ハ議長之ヲ決シ或ハ回議ノ決ヲ問フヘシ

議事

一 議事ヲ開クハ議長ハ書記ヲシテ議案ヲ朗読セシムヘシ

一 議事ハ左ノ数次會ヲ經ルモノトス

第一次會

本會ハ議案ノ大意ヲ議シ可決スルトキハ第二次會ヲ開クヘシ

第二次會

本會ハ前會ニ可決シタル議案ヲ逐条審議シ每節議決シ畢レハ第三次會ヲ開クヤ否ヲ決スヘシ

第三次會

本會ハ前會ニ可決シタル全案ニ就キ可否ヲ議定スヘシ

發言

一 發言セントスルモノハ先ツ起立シテ議長ト呼ビ之ニ向ヒ弁論問

答スヘシ若二人以上同時ニ起立スルトキハ議長其一人ヲシテ發言

セシム

一 議題了ラサル間ハ他ノ議題ニ付發言スルヲ得ス

一 議論冗長ニ涉リタルト認ムルトキハ議長ハ之ノ發言ヲ中止スル

コトヲ得

決議

一 可否ヲ決スルノ法ハ起立又ハ投票ヲ用ヒル等便宜議長之ヲ定ム

一 動議ハ原案ニ先チ可否ヲ決スヘシ

〔朱書〕
「橋第九十二号」

(二)

南綱島村外七ヶ村学区

神奈川町外一ヶ町学区外四学区連合町村會議員左之通當撰相成候条

此旨告示候事

明治十八年五月廿二日

橋樹郡長 松尾豊材

神奈川町 鈴木正次

青木町 小林彦四郎

鶴見村 佐久間亮義

子安村 宮森清実

大豆戸村 椎橋宗輔

北綱島村 飯田快三

北寺尾村 滝川和助

東寺尾村 持丸兵輔

下管田村 小川勢三郎

小机村 小島祐定

〔朱書〕
『橘第一三九号』

(四)

神奈川町外一ヶ町学区連
合町村會議員

〔朱書〕
『橘第一二二号』

(三)

神奈川町外一ヶ町学区外四学区

連合町村會議員

神奈川町外一ヶ町学区外四学区連合町村會議事細則左記之通認可相
成候条此旨及通達候也
明治十八年六月廿四日

橘樹郡長 松尾豊材

議事細則議決上申書

神奈川町外一ヶ町学区外四学区連合町村會議事細則為議定本月十二
日神奈川学校ニ於テ連合町村會開會候条当日午前第八時同校へ參着
可致候旨相達候事

明治十八年六月九日

橘樹郡長 松尾豊材

神奈川町外一ヶ町学区外四学区連合町村會議事細則別紙之通議決候
間御認可相成度此段上申候也
明治十八年六月十三日

橘樹郡長 松尾豊材

神奈川県令 冲 守固殿

前書之通達相成候間当日時間無遅滞御出頭相成度此段御通知および
候也

十八年六月十日

戸長役場(印)

高等科連合学区議員

飯田快三

〔朱書〕
『庶第六百八十号』
書面議事細則認可候事
明治十八年六月二十三日

神奈川県令 冲 守固

(注) 前掲。

〔朱書〕
『橋庶第一〇八八号』

(五)

神奈川町外一ヶ町学区外四学区

戸長 役 場

連合町村会議員

一 神奈川町外一ヶ町学区外四学区連合明治十七年度教育費予算議案

案三部

一 同断明治十八年度教育費予算議案三部

右一部宛及交付候条会日携帶出頭可有之此旨相達候事

明治十八年六月廿三日

橋樹郡役所

〔朱書〕
『橋第一三七号』

神奈川町外一ヶ町学区外四学区

連合町村会議員

神奈川町外一ヶ町学区外四学区明治十七年度教育費及十八年度教

育費為議定本月廿六日神奈川学校ニ於テ学区連合町村会開会候条同

日午前九時同校江參着候様可致此旨相達候事

明治十八年六月廿四日

橋樹郡長 松尾豊材

神奈川町外一ヶ町学区外四学区連合町村会明治十七年度教育費予算
及其他議案

甲号

一金拾貳円

内 金拾貳円

乙号

一金四円拾錢

内 金六拾錢

内 金六拾錢

金五拾錢

内 金五拾錢

金 三円

内 金三円

丙号

一金拾貳円

一金四円拾錢

計金拾六円拾錢

内 訳

一金拾六円拾錢

是ハ明治十八年一月一日調神奈川町外一ヶ町学区外四学区学

餘人員何百人ヲ率トシテ各町村負担額ヲ定メ其賦課徴収方法

ハ各町村会ノ評決ニ任ス

但徴収期ハ何月何日トス

丁号

一 神奈川学校ヲ高等科ト定メ高等科生徒授業料ハ一ヶ月一人ニ

付金貳拾五錢ト定メ而シテ該通学生徒ヨリ直接之レヲ受取ルモ

ノトス

(「閱讀事類」(明治一八年)飯田助丸氏蔵)

九一 高座郡下の維新前諸會議の有無等に

関する取調の件達

(一)

高庶第千五十八号

別紙記載之諸項至急調査ヲ要スル義有之候ニ付取調之義本県ヨリ照

会有之候条速ニ御取調来ル十五日会同之際無相違御携带有之度郡長

ノ命ニ依リ此段及御通牒候也

明治十八年五月八日

高座郡役所庶務課

戸長役場御中

五月廿二日

(二)

高庶第千四十一号

維新前町村ニ於テ相談会又ハ寄合ノ如キ會議ノ設ケアリヤ否等左ニ

列記ノ条項詳細取調之義本県ヨリ照会有之候間取調ノ上各項目ニ依

リ書類ヲ要スルモノハ之ヲ添ヘ所見ヲ付セラレ来ル廿五日迄ニ当衙

ヘ可差出此段相達候也

但該項目中秘密ヲ要スルモノモ有之候ニ付其辺注意可致候也

明治十八年五月十九日

高座郡長 今福元穎

戸長 桐生増兵衛殿

取調条目

第一 維新前町村ニ相談会又ハ寄合等ノ如キ會議ノ設ケアリシヤ其

慣例ハ如何

第二 右會議ニ何等ノ者出席シタルヤ

第三 又全會議ニ於テハ何等ノ事項ヲ議定シタルヤ

第四 全会出席人貧富ノ差ニ依リ自ラ議決上ニ勢力ノ等差アリタル

カ

第五 現今ノ区町村會議員ハ地租収納者ニ限ルノ成規ナルニ之ヲ維

新前ノ議員ニ比スレハ其出席權利上ニ不平均アルカ又其不平均ノ

条件

第六 区町村会ノ景況及創立以来ノ盛衰

第七 全撰挙権アルモノハ悉ク自ら進テ投票スルカ將タ官ヨリ督促

スルカ

第八 全上ノ権利アル者ニテ投票ヲ為サ、ル者アルカ又ハ此等人員

ハ漸次減少ノ勢ナルカ

第九 当撰ヲ辞スル者数多之レアリヤ此等人員ハ漸次減少ノ勢ナル

カ

第十 全会ノ設アルカ為メ行政上便宜不便宜ノ条件

第十一 区町村会ニ於テ議決シタル費金ヲ以テ挙行スル事項ノ細目

第十二 連合区町村会ノ有無及其議案

第十三 租税徴収事務ハ戸長役場諸事務ノ大部分ニ居ルカ若シ此徴

収事務ヲ引離ストキハ余程閑ニ帰スヘキ見込カ

第十四 管内重ナル神社仏閣参詣人ノ盛衰〔但現今ノ実況〕

〔訓第五号高座郡達書〕(明治一八年) 相模原市役所蔵

六三 高座郡上草柳村下草柳村連合会議事細則

認可伺

高座郡上草柳村下草柳村連合会議事細則伺

議場整理

一 会議ハ午前九時ニ始メ午後三時ニ終ル

但時宜ニヨリ議長之ヲ伸縮スルコトヲ得

一 議員ノ席次番号ハ改撰ノ期毎ニ籤ヲ以テ之ヲ定ム

一 議事中議員ノ退着席ハ議長ノ許可ヲ得ベシ

一 議員ノ内病氣其他ノ事故アリテ出席スルヲ得ザルトキハ開會時

限ニ先タチ該事由ヲ議長ニ届出ベシ

一 議事中議員相私話シ或ハ吸烟シ其他議事ヲ妨クルノ挙動アルヲ

許サズ

一 議事中ハ各自姓名ヲ呼ハスシテ議長又ハ何番議員ト呼ベシ

一 議事中議題外ニ起リタル総テノ事件ハ議長之ヲ決スベシ

議事

一 議事ヲ開ク時ハ議長ハ書記ヲシテ議案ヲ朗読セシムベシ

一 議事ハ左ノ数次会ヲ経ルモノトス

第一次会

本会ハ議案ノ大意ヲ議シ可決スル時ハ第三次会ヲ開クベシ

第二次会

本会ハ前会ニ可決シタル議案ヲ逐条審議シ毎節議決畢レハ第三

次会ヲ開クヤ否ヲ決スベシ

第三次会

本会ハ前会ニ可決シタル全案ニ就キ可否ヲ議定スベシ

発言

一 発言セント欲スル者ハ先ツ起立シテ議長ト呼ヒ之ニ向ヒ弁論問答スベシ若シ式人以上同時ニ起立スルトキハ議長其宅人ヲシテ発言セシム

一 一議題了ラザル間ハ他ノ議題ニ就キ發言スルヲ得ス

決議

一 可否ヲ決スルノ法ハ起立又ハ投票ヲ用キル等便宜議長之ヲ定ム
ベシ

一 動議ハ原案ニ先タチ可否ヲ決スベシ

右ハ明治十七年本県甲第五拾貳号区町村会規則第五条之明文ニヨリ
当上草柳村下草柳村貳ヶ村連合會議事細則前記之通り連合会ノ議決
ヲ得候間御認可相成度此段奉候也

明治十九年五月三日

高座郡下鶴間村外三ヶ村

戸長 富沢豊治郎(印)

神奈川県令 沖 守固殿

(指令綴) (明治一七—一八年) 大和市役所蔵

第二節 県会関係

六三 県會議員選挙に関する愛甲郡長の伺案

県會議員撰挙ノ儀ニ付伺案回議

今般郡区制定ニ際シ首トシテ郡長ヲ挙ラレ尋ニ郡書記ニ及支邸戸長撰任ノ事ニ至ル是此順序自ラ然ラサルヲ得サルモノト雖茲ニ一ノ顧慮仕ルヘキモノアリ県會議員則チ其人ナリ地方相当ノ人材ヲ撰拔スル已ニ前頭ノ順序ヲ以テ至大ノ責任何人ニ担任セシムベキヤ之ヲ缺中ノ錚々ニ撰フモ恐ラハ其人ヲ得ルニ難カラン若然ラハ大事ノ県会モ徒ニ虚飾ニ属シ其効迹ヲ見ル能ハサルヘシ如斯ハ今般地方治勢一大改革ノ御主意ニモ抵触致スヘキカト思慮仕候依テ先県會議員ヲ撰拔シ議員ニ撰定セハ各自其議スヘキ条款ニ就キ予而シテ戸長撰挙ニ及ノ思慮スヘキ猶予ヲアタフル見込ニ御座候ヒ度右ハ別紙(金)ノ通り旧戸長副ヨリ伺出候義モ有之目下切迫ノ事件ニ付至急何分ノ御指令有之度此段相伺候也

明治十一年十二月廿一日

愛甲郡長 中山信明

神奈川県令 野村 靖殿

(指令伺綴) 大矢玄ひ氏蔵

(注) 別紙欠。

六 県會議員選舉人名簿編制心得

乙第百八拾四号

郡区役所

県會議員撰挙可致候就テハ被選人并選舉人名簿別紙ニ照準至急編制致シ調製次第其旨可届出此旨相達候事

明治十一年十二月廿三日

神奈川県令 野村 靖

(別紙)

被選人名簿編制心得

- 一 被選人名簿ハ各郡区役所ニ於テ調製スヘシ
 - 一 被選人ヲ調査スルハ府県会規則第十三条ニ照シ抵触スル所無キモノヲ左ノ雛形ノ如ク記名シ本人ヲシテ調印セシムヘシ
- 但年齢ハ明治十二年二月ヲ以テ計算スヘシ

一名簿ハ西ノ内縦帳ニ製シ半葉ニ右ノ名刺四枚ヲ貼付シ其結尾ニ

某郡 某町 何番地	何	之	誰
美濃紙八ツ切	何年何月何日生	明治十二年二月何年何ケ月	

郡長及之ヲ担当シタル書記記名調印スヘシ

- 一 被選人名簿ハ議員ノ補欠等々要用ニ付左ノ異動アル毎ニ必ス加除訂正スヘシ

転居及他郡区入送籍

死亡失踪

府県会規則第十三条ニ抵触ヲ生スル者

新ニ同条ニ適スル者年齢不足ナル者ニ十五年ニ滿テ納租拾円以下ナル者拾円ニ滿テ身代限処分ヲ受シ者并償ヲ終ヘ

他府県ヨリ転籍ノ者三年ニ滿テシ等ノ類ヲ云

- 一 地租ヲ納ムルノ額其郡区外ニ在テ調査シ難キモノハ他郡区ヘ照会シ或ハ県庁ノ納租簿ヲ閱スル等ノ処分ヲ為スヘシ

- 一 被撰人名簿ハ他郡区ヘモ通シテ用ユルモノニ付他郡区ヨリ借覽ヲ望ムトキハ何時モ差支ナキノ便宜ヲ為シ置ヘシ

撰挙人名簿編制心得

- 一 撰挙人名簿ハ各郡区役所ニ於テ調製スヘシ
- 一 撰挙人ヲ調査スルハ府県会規則第十四条及第十三条中ノ第一第二第三項ニ抵触スル所ナキ者ヲ左ノ雛形ノ如ク記名シ本人ヲシテ調印セシムヘシ

某郡某町何番地	何	之	誰
何年何月何日生			
明治十二年二月何年何カ月			

一 名簿ノ用紙及其調製方ハ被撰人名簿ト同シ
 一 撰人名簿ハ議員補欠等時々要用ニ付其異動アル毎ニ加除訂正シ及其郡区外ニテ地租ヲ納ムル者取調方等ハ総テ被撰人名簿心得ニ準拠スヘシ

(神奈川県布達)

五 第一回県会議員選挙区と定数

庶〔甲第二十七号〕

本年ヨリ県会開設候就テハ県会議員初度選挙ノ員数左ノ通相定候条
 明治十一年七月第十八号公布府県会規則ニ依リ本月中ニ選挙会可相開
 此旨布達候事

但選挙期日及会場等ハ郡区长ヨリ可相達儀ト可心得事

- 横浜区 五人 久良岐郡 貳人
- 橘樹郡 四人 都筑郡 貳人

六 県会議員公選反对建言書

県会議員公撰不可之建言

西多摩郡	三人	南多摩郡	四人
北多摩郡	三人	三浦郡	四人
鎌倉郡	貳人	高座郡	四人
足柄上郡	貳人	足柄下郡	三人
大住郡	三人	洵綾郡	貳人
愛甲郡	貳人	津久井郡	貳人

(神奈川県布達)

御管下高座郡福田村平民農山下康哉薰沐敲頭謹而書ヲ神奈川県令野
 村公之虎皮下ニ奉ジ公則恐レヲ顧ミズ県会議員撰不可ノ議ヲ呈シ
 伏テ命ヲ左右ニ請フ夫レ県会議員ノ任タルヤ極メテ重ク上ハ以テ朝
 旨ヲ遵奉シ下ハ以テ土地ノ形勢人民ノ情態ヲ明察シ其人トナリ大公
 至平ノ道ヲ尽シ敢テ暴慢雷同等ノ挙動ナク其論議中聊カ一点ノ私議
 ヲ挟ム等ノ癖ナク其論ズベキ所洋々平氣言語温和ニシテ其ノ理ノア
 ルベキヲ弁説シ其ノ服スベキハ虚心公平ノ心ヲ以テ之レニ服スルコ
 ト恰モ影ノ物ニ従フガ如ク敢テ一身ノ謀功ヲナサズ勉メテ人民ノ安
 寧ヲ計リ以テ職ニ斃ル、ノ剛志ナカル可ラズ如斯ノ人ヲ得テ始メテ

一県内ノ人民ヲシテ泰山ノ泰キニ置クコトヲ得シヤ是ヲ以テ論ズレバ県會議員ノ任タル其重キコト郡区長ノ右ニ出ルト雖トモ亦不可ナルベシ如何トナレバ郡区長ノ任重シト雖トモ若シ其人ヲ得ザルモ其不幸一郡区ニ止ル苟モ県會議員其人ヲ得ザレバ一県内人民ノ不幸ニシテ其患フベキ亦更ニ大ナリ嗚呼県會議員ノ任亦重乎重矣其任既ニ重ケレバ則チ之レヲ擧撰スルノ道モ亦難カラザルヲ得ズ然ラバ其ノ之ヲ擧撰スル者モ亦同心協力極メテ公平ノ心ヲ以テ敢テ親疎恩讎ノ心ヲ嵌シ以テ其ノ道ヲ私スベカラズ必ズヤ其擧撰セント欲スルノ人ハ平素何等ノ説ヲ吐キ何等ノ芟業ニ従事シ或ハ百折撓マズ老鍊明識ノ驗アルヤ否又其ノ目的トナス処何等ノ方向ニ其ノ心鋒ノ向フヤ至公平準ヲ要スルヤ任当事理ニ適実スベキヤ否ヤ洞察シ以テ之レヲ擧撰スルニアラザレバ必ズヤ拳々失スルノ患アルベシ然リ而シテ今ヤ我國上ニ英明ノ君アリ下ニ赤心ノ臣アツテ以テ能ク治道ヲ興隆ナラシムト雖トモ維新日尚未ダ浅キノ故ヲ以テ乎將タ七百余年封建压抑ノ余弊未ダ全ク洗除セザルノ故乎都會ノ人民既ニ智且ツ開化ニ進ムト雖トモ僻邑ノ住民ニ至リテハ未ダ嘗テ旧物ヲ改メス父以テ其子ニ教ユルヲ知ラズ子以テ其父ヲ養フヲ知ラザル多シ況ンヤ天下ノ大法ニ於テヲヤ況ンヤ欧米文明ノ意ニ基キ此ノ會議ヲ發クノ趣意ニ於テヲヤ未ダ其ノ味ヲ啜ラザルモノ十ノ半ニ過グベシ如斯キノ人智ヲ

以テ重任ヲ負担スル如斯キノ議員ヲ擧撰スル未ダ拳々ヲ失フ患ナシト言フベカラズ康哉夙ニ之ヲ患ヒ以テ人ニ語ル或人曰ク議員ヲ擧撰スル民撰ヲ以テ之ヲナス欧米諸國皆然リ然ルヲ子独リ之ヲ患フ何ゾヤト余亦答テ曰ク議員ヲ擧撰スル民撰ヲ以テ之ヲナス固ヨリ理義相適シ誠ニ良法ト言ツベシ然レドモ人民開化ノ等級ニ隨ヒ亦大小吏ノ區別ニヨリ物事平準ヲ要スルト要セザルアリ今ヤ欧米ヲ以テ規矩トナス可ラズ試ミニ觀ヨ欧米諸國ノ良法ヲ以テ俄カニ亞非利加南部ノ野蠻國ニ施行セバ果シテ行ハルヤ否ヤ我斷シテ其ノ施行ノ難キヲ知ルナリ今ヤ我國人智ノ等級素ヨリ亞非利加南部ノ民ト日ヲ同フシテ語ル可カラサレトモ之ヲ欧米諸國ノ民ニ較スルニ至リテハ亦日ヲ同フシテ語ル可ラズ故ニ其ノ良法ト雖トモ今俄カニ之レヲ我國ニ施行ス可ラズ之レヲ余ノ民撰ヲ可トナサズシテ却ツテ官撰ヲ可トナス所以ナリ亦問フ其ノ郡区内ニ施テ地租五円以上納ムルモノヲシテ其ノ府県内ニ本籍ヲ定メタル地租十円以上納ムルモノノ議員タルヲ得ベキノ公布モ之レ有り然ル所ノ現今納租人御調査ノ法適実スル能ハズ哉ト余モ亦然リ故ニ其ノ素志ヲ閣下ニ奉通スル所以ナリ嗚呼閣下ハ民ノ父母ナリ民ノ父母ナリ矣希クハ下情御洞察アリテ英邁ノ活眼ヲ以テ披擯アラシムレバ果シテ拳々失フノ患ナキ矣乎然ルトキハ管下一区十四郡ノ人民安危隆替ノ満足スルノミナラズ其ノ盛ナルコト果シ

テ他県ニ甲タル可シ之レ子ノ聊カ国家ヘ志ヲ尽ス所以ナリ然レトモ
余ヤ素ヨリ僻邑ノ一小農未ダ嘗ツテ文字ニ長セズ筆ニ意ヲ尽スコト
能ハズ其ノ文体ニ礼ナク言語ニ不遜ノ語アルヤ必セリ矣憐レ願クハ
県令其ノ文札ナキト言語ノ不遜ヲ責メズ正明寛大ノ意ヲ垂レ賜ヒ幸
イニ取ルベキアラバ請フ一度余ヲ閣下ニ招キ給ハンコトヲ余モ亦門
下ニ敲頭シテ自ラ其ノ愚志ヲ弁ズルコトヲ得ン予何ヲ以テカ之レニ
過ギンヤ康哉昧死伏テ斧鉞ノ誅ヲ待ツ 恐惶頓首

明治十二年二月七日

山下 康哉

神奈川県令 野村公閣下

(桜井栄一郎氏蔵)

九七 県會議員選挙資格に関する件伺

議員選挙ニ付伺

本月五日本県乙第三十号ヲ以議員選挙会取扱方心得御達中第六項
「議員及ヒ選挙人トナルヲ得ヘキ者其所有地ヲ質入書入トナスモ所
有権ヲ移転スルニ非サルヲ以仍ホ議員及ヒ選挙人トナルノ権ヲ失フ
コトナシ」ト右御達ニ拠レハ他ニ地所ヲ質入ト為シ現ニ地租ヲ納メ
サルモノト雖モ所有権ヲ有スルモノハ仍ホ議員及ヒ選挙人トナルヲ
得ルカ如シ果シテ然ラハ太政官第十八号府県会規則中地租十円以上

ヲ納ムル者ニ限ルトノ成文ニハ聊カ支離ヲ覺エ候抑モ該成文ノ深意
ハ明解スル能ハスト雖モ蓋シ資力アル者ニ非レハ衆庶ノ信用モナク
随テ世安ヲ図リ公益ヲ務ムルニ堪エサルヨリ成立候儀ト被考候而シ
テ本県御達所有権ヲ移転スルニ非サルヲ以テトアルヲ視レハ地所ヲ
質入ト為スモ夫レカ為メ其權利ヲ失却セシ者ニ非スト云フヨリ成立
シモノ、如シ然レトモ地所ヲ質入ト為セシ者ハ資力アルモノトハ見
做シ難シ若資力ナキモノモ議員及ヒ選挙人トナルヲ得ルトナレハ地
租十円以上納ムル者ニ限ルトアル御成規ハ実施スルコト能ハサルカ
如シ右ハ目下被選挙人名簿モ整理シ議員選挙会ヲ開設スルニ際シ疑
團ヲ生候間至急御指揮相成度此段御伺候也

明治十二年二月

郡長名

神奈川県令 野村 靖殿

(草稿綴) (明治十二年) 山口匡一氏蔵

九八 議事傍聴心得書

議事傍聴心得

第壹条 會議ヲ傍聴スル者ハ必ス傍聴牌ヲ齎スヘシ傍聴牌ハ一日限
リ之ヲ収ムヘシ

第二条 傍聴牌ハ其日開會ニ先テ議事堂受付所ニ至リ名刺ヲ出シ之

ヲ乞フヘシ

第三条 會議ヲ傍聽スル者ハ靜爾ヲ主トスヘシ五ニ語ヲ接シ又ハ喫

煙スルヲ得ス若シ規則ニ從ハス議長ニ於テ議事ノ妨ケヲ為ス者ト

見認ムル者ハ書記ニ命シテ之ヲ退去セシムヘシ

右之条々確守可致事

明治十二年
 第八月四日

正副議長

(桜井栄一郎氏藏)

九 県令公選に関する建議草稿

明治十五年

県令公撰ノ建議草稿

伏シテ惟ミルニ政ヲ施スハ人民ノ便利ヲ謀ルヨリ要ナルハ莫ク制ヲ設クルハ衆庶ノ情意ニ適スルヨリ先ナルハ莫シ今ヤ熟々県下人民情意ノ在所ヲ顧ミルニ自治ノ氣風大ニ山野ニ伝播シ依頼ノ習俗稍ク闊巷ニ消滅スルモノ、如シ其將サニ盛ンナラントスル自治ノ氣風ヲ振作シ其將サニ衰ヘントスル依頼ノ習俗ヲ掃蕩シ上ミ大政府ノ施政ニ便シ下モ衆庶民ノ情意ニ適セシムル是本會議員ノ職分ナリ府県會規則第一章ノ明条ヲ奉シ事大ニ県治ノ利害ニ関スルモノアルヲ以テ謹テ書ヲ裁シテ閣下ニ建議ス

凡ソ物利アレハ則チ害之ニ伴フ況ヤ政ヲ施シ制ヲ設クル必其時ト其勢トニ從ヒ利害得喪其効ヲ異ニスルモノヲヤ中央集權ノ論地方分權ノ説是レ曾テ朝野ヲ動カシタル天下ノ一大問題ナリ中央集權利害アリ地方分權得喪アリ集權ノ論末タ必シモ害アルニ非ス分權ノ説豈必シモ利アルノミナラン蓋シ封建割拠ノ世天下常ニ尾大不掉ノ勢アリ故ニ矯ムルニ中央集權ノ道ヲ以テテ是大政府力維新ノ初ニ方リ三百年來霸府諸侯ノ久ク私セシ土地人民ノ所有ト其擅ニセシ刑政兵馬ノ權柄トヲ收攬シテ大小三百ノ列藩ヲ挙ケテ一掃シ尽セシ所以ナリ此時ニ當テ天下唯施政ノ画一ナラサランコトヲ是憂フ故ニ出テ府知事県令トナルモノ皆中央政府ノ權リニ官撰ヲ以テ之ヲ命シ其土地人民ヲ治シムル既ニ其弊ヲ矯矣政令ノ其撰ヲ一ニシ大權ノ中央ニ集マルヤ日アリ今ニシテ而テ其制ヲ更メサレハ從テ生スルノ弊害又淺少ニアラス天下ノ大勢已ニ定マリ集權ノ弊害將サニ成ラントスルニ際シ人民自治ノ氣風ハ反テ其間ニ長シテ依頼ノ習俗稍此中ニ消スルヲ見ル地方分權ノ今日ニ急要ナル又何ヲ疑ハン

抑モ分權ナル者ハ則チ地方長官ノ特權区域ヲ拡充スルノ謂ヒニシテ苟モ其特權区域ヲ拡充セハ大政府ハ忽チ地方ノ政治上大ニ煩ヲ省クノ便ヲ得ルハ智者ヲ俟テ而テ知ルニ非ルナリ煩ヲ省テ簡ニ就ク唯大政府ノ事務ヲ減ルノミナラス之カ地方人民タル者欣然産ヲ殖シ勃然

業ヲ興シテ其生計ノ度ヲ進メ其快樂ノ情ヲ暢ヘ軼タ教育ノ進歩ヲ促シ又益々政治ノ思想ヲ發達スルニ至ラン分權ニシテ行ハルレハ分財又從テ地方ニ併行スルヤ必セリ顧テ本邦今日ノ景狀ヲ觀察スルニ天下ノ貨財百物皆中央首府ニ騰集シテ地方ノ零落日ハ日ニ衰へ年ハ年ヨリ微ナリ歳豊ニシテ儉父顔ニ菜色アリ冬暖ニシテ山妻肌尚寒シ結局遂ニ今日ノ極ニ陥リ言フニ忍ヒサルノ慘狀ヲ呈ス其循環融通ノ利ヲ得サルヤ年々歳々地方ノ膏血ヲ他ノ中央首府ニ輸出シ去テ天下ノ富ヲ挈テ以テ東京ノ文明ヲ裝飾スルニ至ル而テ其然ルヲ致ス所以ノモノ又集權ノ余弊ニアラサルハナシ噫又恤マサル可シヤ地方ノ衰態已ニ此ノ如シ山野ノ慘狀又此ノ如シ而テ今日人民ノ尚ホ因テ以テ僅カニ自ラ存ルコトヲ得ルモノ唯幸ヒニ此年ノ豊稔ト米価ノ騰貴トニ頼ルノミ加フルニ客歲ニ至ル迄ニテ第四十八号ノ公布アリ令一度出テ賦稅忽チ倍ス而テ下民ノ翕然トシテ其令スル所ニ服シテ敢テ或ハ義務ヲ尽スニ怠ラサルモノ豈他アラシヤ大政府明カニ示スニ地方政務改良ノ聖意ヲ以テスレハナリ夫レ地方長官ノ職タル掌裡其管内人民ノ安危休戚ヲ握ルモノナリ其官ヲ命シ其職ヲ任スル閔スル所大ニシテ且重シ公撰ハ正ナリ官選ハ權ナリ權豈久シク正ヲ犯スヘケンヤ實宇大矣土壤広矣山川地形ヲ同クセス海陸民業自ラ殊ナリ地形同シカラス民業已ニ殊ナレハ風俗人情亦從テ別異ナキ能ハス風俗ノ別ナ

ル同一ノ政ヲ施ス可カラス人情ノ異ナル亦均一ノ制ヲ設ケ難シ凡ソ州県ノ治ニ為スモノ画一制度ノ不可ナル固ヨリ言フ俟タズ今日ノ地方長官タルモノ皆才智學識ヲ備ヘ能ク其事ニ幹タルニ堪ユルノ人材ニシテ然モ亦實際ノ經驗ニ富メル老練卓見ノ良士ニ非ルモノナシ然リト雖モ閩東ノ士來テ閩西ノ地ヲ治メ西州ノ人往テ東土ニ牧タリ故ニ其人情ニ通セス其風俗ニ達セサルヲ以テ施スヘカラサルノ政ヲ施ス可ラサルノ地ニ施シ設クヘカラサルノ制ヲ設ク可ラサルノ国ニ設ケ動モスレハ輒チ其政ヲ施スヤ信シテ以テ便トスル所ニシテ反テ人民ノ不便ヲ招キ其制ヲ設クルヤ視テ以テ利トスル所ニシテ反テ衆庶ノ不利ヲ惹クモノアリ況ヤ其僚屬又多ク異郷ノ人士ヲ用フルヤ本県幸ヒニ未タ曾テ此弊アラスト雖モ將來焉ソ永ク良県令ヲ得ルコト今日ノ如クナルヲ保セン又焉ソ終ニ其弊ナキヲ知ラシヤ中央集權ノ弊彼レカ如ク地方ノ民情又此ノ如シ今日地方分權ノ利ニシテ県令公撰ノ正ナル地方政務ノ改良之ヲ措テ他ニ亦急要ナルモノアルヲ見ス然ハ則チ之ヲ条理ニ問フモ我政府ハ實ニ地方分權ヲ許サル、ノ理アリ之ヲ事情ニ照スモ我県民寔ニ県令ヲ公撰スヘキハ道アリ是本會カ深ク県民實際ノ情狀ヲ觀察シテ敢テ之ヲ閣下ニ建議スル所以ナリ幸ヒニ採択ヲ賜ハ、県下人民ノ幸福ナルノミナラス政府又一地方ノ施政ヲ改良シ事務又從テ其煩ヲ省スル所アラン閣下冀クハ明鑑ヲ垂レ

ヨ 再拜謹白

(添田茂樹氏藏)

ト會員三人以上ノ住所屬族姓名ヲ明細ニ記載スヘシ

第三節 県行政と民情

一〇〇 言論 集会等取締に関する件達(二一五)

(ニ)

甲第七十二号

本年七月本県甲第六号ヲ以テ演説会ヲ開ク者ハ其都度許可ヲ經テ施行可致旨布達候処自今政談講学ヲ目的トシ演説若クハ論議等ノ為集會候節ハ左ノ通相心得可届出此旨布達候事

但現今許可ヲ經開場ノ分ハ本文ニ準シ更ニ又可届出事

明治十一年十二月二十日

神奈川県令 野村 靖

甲第七十五号

本年十二月本県甲第七十二号ヲ以テ政談講学ヲ目的トシ演説若クハ論議スル会場ヲ開設セントスル者ハ所轄警察署エ可届出旨布達候ニ付テハ右会場エ警察官吏監臨候条為心得此旨布達候事

明治十一年十二月廿三日

神奈川県令 野村 靖

甲第七十三拾号

諸新聞並ニ雜誌類読売候儀自今禁止候条此旨布達候事

明治十二年十二月廿七日

神奈川県令 野村 靖

(ニ)

第一条 凡政談講学ヲ目的トシ衆ヲ集メテ演説若シクハ論議スル者

ハ予メ会主及ヒ會員三人以上ノ連名ヲ以テ其所管警察署ニ届書ヲ出ス可シ

但定日時ナキ者ハ開会ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ届書ヲ出ス可シ

シ

第二条 届書ニハ会台ノ趣意場所及定日時又ハ定日時ナキ事及会主

甲第八十五号

本年四月第十式号ヲ以テ集会条例布告相成候ニ付テハ明治十一年七月甲第六号同十二月甲第七十二号甲第七十五号布達ハ相廢シ候条此旨布達候事

明治十三年五月十日

神奈川県令 野村 靖

甲第三十七号

(三)

今般諸印版取縮規則左之通創定來ル五月一日ヨリ施行候条此旨布達候事

但行事撰定之儀ハ六月十五日限り可申出事

明治十四年三月十二日

神奈川県令 野村 靖

諸印版取縮規則

第一条 印判板木活版銅版焼印石版等ノ業ヲ営ナム者及其他ノ者ト

雖モ若シ官庁外ヨリ官ノ文書及印影ノ彫刻印刷ヲ頼ム者アルトキ

ハ其住所氏名ヲ聞取り其着手前直ニ所管警察署又ハ分署ニ届出指

揮ヲ受ク可シ

但戸長役場並ニ公立学校病院モ亦本文全様タル可シ

第二条 前条ノ營業者ハ一郡区ヲ一組トナシ一組ニ正副行事ヲ置ク

モノトス其行事ハ互撰投票ヲ以テ之ヲ定メ且郡区役所ヲ經由シテ

其營業人名簿ヲ警察本署ニ差出スヘシ

但取縮向ニ付費ス所ノ費用ハ各組合ニ於テ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第三条 行事ハ警察官ノ指揮ニ随ヒ其郡区内營業者等ニ伝達シ及之

ヲ申報スヘシ

第四条 印章ハ其印影文書ハ其書名並依囑者ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳

記シ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第五条 疑敷者ト見認ルトキハ最寄警察署又ハ分署へ密告スヘシ

(四)

甲第二百三十六号

劇場取縮規則左ノ通相定メ來ル明治十五年一月一日ヨリ施行候条右

ニ関スル従前ノ布達ハ全日限り廢止ト心得ヘシ此旨布達候事

但已ニ許可ヲ得タル定席ニシテ引続營業セント欲スルモノハ別ニ

出願ニ不及候事

明治十四年十二月十三日

神奈川県令 沖守固代理

神奈川県少書記官 磯貝静藏

劇場取縮規則

第一条 新タニ劇場ヲ設ケ營業ヲ為サント欲スル者ハ其場所ヲ詳記

シ其地主並全町村内地主ハ勿論四隣接統町村地主ノ連署シタル願

書ニ図面ヲ添ヘ戸長ノ奥書ヲ受ケ郡区役所ヲ經テ本庁ニ出願許可

ヲ受クヘシ

但廢業スルトキハ本文ノ手續ニヨリ其旨届出ツヘシ

第二条 既ニ許可ヲ得タル場所ヲ他ニ移転營業セントスルトキハ前
条ノ手續ニヨリ更ニ出願許可ヲ受クヘシ

第三条 定席ニアラスシテ一時演劇興行ヲナサントスルモノハ其場
所及四隣地主ノ連署シタル願書ニ戸長ノ奥書ヲ受ケ所管郡区役所
へ出願許可ヲ受クヘシ

第四条 演劇興行者ハ其都度予メ仕組帳ヲ添ヒ其題号ヲ所管警察署

又ハ分署へ届出ツヘシ

第五条 左ノ諸項ヲ禁ス

一 淫行醜態ニシテ風俗ヲ敗壞スル事

二 忠孝貞節ノ倫理ヲ顛倒シ勸善懲惡ノ旨意ヲ失スル事

三 營業ノ認可ヲ受ケス又ハ停業中ノ俳優又ハ芸人ヲ出席セシム
ル事

四 観客ヲ俳優又ハ芸人ノ休憩所へ立入ラシムル事

五 種々ノ名義ヲ以テ観客ニ圖ヲ売リ出金ヲ促ス事

第六条 座席及ヒ廁ヲ清潔ニスヘシ

第七条 夜ハ十二時限り閉場スヘシ

第八条 観客退去ノ節混雑セザル様注意スヘシ

第九条 木戸銭等ヲ取ラスシテ興業スルモノモ揮テ此規則ニ遵フヘ
シ

甲第二百三十七号

観物場取締規則別冊ノ通相定メ来ル明治十五年一月一日ヨリ施行候
条此旨布達候事

明治十四年十二月十三日

神奈川県令冲守固代理

神奈川県少書記官 磯貝静藏

(別冊)

観物場取締規則

第一条 観物場トハ天産又ハ人造ノ物品并足芸輕業手踊曲馬其他技
芸ヲ演シ又ハ禽獸ヲシテ技芸ヲ演サシメ観覽ニ供スルノ場所ヲ云
フ

第二条 前条ノ場所ヲ設ケ營業セント欲スル者ハ其場所及ヒ日数ヲ
記載シ戸長ノ奥書ヲ以テ所轄郡区役所へ願出許可ヲ受クヘシ

第三条 前条營業者ハ興行ノ都度其物品又ハ仕組ヲ記載シ所管警察
署又ハ分署へ届出ヘシ

第四条 左ノ諸項ヲ禁ス

一 人造物ヲ天造物ト唱へ又ハ價造ヲ真ト称シ其他人智ノ發達ヲ
妨タクル事

二 醜態ヲ顯ハシ其他風俗ヲ乱ス事

三 看板ト実物ト相違スル事

三 看板ト実物ト相違スル事

三 看板ト実物ト相違スル事

三 看板ト実物ト相違スル事

三 看板ト実物ト相違スル事

三 看板ト実物ト相違スル事

四 木戸錢又ハ見料ノ外種々ノ名義ヲ以テ來客ニ出金ヲ促ス事

第五條 夜ハ十二時限リ閉場スヘシ

但神仏祭典ノ節ハ此限ニアラス

第六條 横浜区内ニ於テハ左ニ記載スル場所ノ外興行スルヲ許サス

但神仏祭典等ノ節社寺境内ニ於テ興業スルハ本文ノ限リニアラ

ス

福富町壹丁目

伊勢佐木町貳丁目

松ヶ枝町

姿見町

若竹町

梅ヶ枝町

羽衣町

蓬萊町

浪花町

但既ニ許可ヲ得タル者ニシテ引續キ營業セント欲スル者ハ別ニ出願ニ不及候事

明治十四年十二月十四日

神奈川縣令沖守固代理
神奈川縣少書記官 磯貝静藏

(別冊)

寄席取締規則

第一條 寄席營業ヲナサント欲スル者ハ其場所ヲ詳記シ戸長ノ奥書

ヲ以テ所轄郡区役所ヘ出願許可ヲ受クヘシ

但廢業スルトキハ其旨本文ノ手続ニヨリ届出ツヘシ

第二條 既ニ許可ヲ得タル場所ヲ他ニ移転營業セント欲スルトキハ

前條ノ手続ニヨリ更ニ出願許可ヲ受クヘシ

第三條 寄席ニ於テ興行スルハ左ノ諸項ニ限ルモノトス

一 講談(軍談)

二 淨瑠璃(人情噺)

三 唱歌

四 手品

五 落語

六 音曲

七 写シ絵

甲第二百四十号

寄席取締規則別冊ノ通相定メ來ル明治十五年一月一日ヨリ施行候条
右ニ関スル従前ノ布達ハ全日限リ廢止ト心得ヘシ此旨布達候事

八 操人形

第四条 左ノ諸項ヲ禁ス

一 猥褻ナル講談落語淨瑠璃唱歌身振写シ絵

二 忠孝貞節ノ倫理ヲ顛倒シ勸善懲惡ノ旨意ヲ失スルノ講談淨瑠

理

三 演劇類似ノ所作

四 來客ヲ芸人ノ休息所ヘ立入ラシムル事

五 種々ノ名義ヲ以テ來客ヘ圖ヲ売リ出金ヲ促ス事

六 燈火ヲ消シ又ハ蔽ヒ客席ヲ暗黒ニスル事

七 營業ノ認可ヲ得ス又ハ停業中ノ芸人ヲ出席セシムル事

第五条 座席及ヒ廁ヲ清潔ニスヘシ

第六条 夜ハ十二時限リ閉席スヘシ

第七条 來客退去ノ節混雜セサル様注意スヘシ

第八条 木戸錢等ヲ取ラスシテ興行スルモノモ揮テ此規則ニ遵フヘ

シ

第九条 此規則ニ背クモノハ一日ノ拘留ニ処シ又ハ拾錢以上一円以

下ノ科料ニ処ス

乙第十二号

(五)

郡区役所
戸長役場
学務委員

從來學校等ヲ仮用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スル向モ有之候処其行為ノ遊興弄戲ニ屬スルモノ并ニ言論ノ猥褻詭激ニ涉ルモノハ教育上妨害少ナカラサル儀ニ付自學校ヲ右ニ充用セシメサルハ勿論都テ不取締無之様注意可致此旨相達候事

明治十五年一月卅一日

神奈川県令 沖 守固

乙第三十一号

郡区役所
戸長役場
学務委員

學校ヲ集會ニ充用取締方ノ儀ニ付本年一乙第十二号ヲ以テ相達候趣モ有之候付テハ自今止ムヲ得サル事由アリテ學校ヲ集會等ニ充用セシメントスルトキハ其事由及趣旨ヲ具シ郡区長ノ認可ヲ受クヘク且当日行為言論ノ事項並諸般ノ景況等逐一取調郡区役所ヲ經テ県庁へ届出ヘシ此旨相達候事

明治十五年三月十日

神奈川県令 沖 守固